

第1学年 算数科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「かたちあそび」

2 単元の目標

身の回りにあるものの形について、箱の形・筒の形・ボールの形などの形を見付け、平ら・丸い・かどがあるなどの形の特徴や、転がる・積み重ねられるなどの形の働きを知り、具体物を用いて形を作ったり分解したりできる。ものの形に着目し、色や大きさ、材質などを離れて形の特徴を捉えたり、積んだり組み合わせたりする操作で形の構成について考えたりする。身の回りのものの形に親しみ、形を見付けたり作ったりすることのよさや楽しさを感じながら学ぼうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身の回りにあるものの形について、箱の形、筒の形、ボールの形などの形を見付けることができる。また、平ら、丸い、かどがあるなどの形の特徴や、転がる、積み重ねられるなどの形の機能的な特徴を知っている。 ②積み木や箱、筒などを用いて、身の回りにある具体物の形を作ったり、作った形から逆に具体物を想像したりすることができる。	①身の回りにある具体物の中から、色や大きさ、位置や材質などを捨象し、形を認め、形の特徴を捉えている。 ②積む、並べる、写し取るなどの操作をして、形の特徴を生かした形の構成について考えている。	①身の回りにあるものの形に親しみ、観察したり、構成したり、分解したりしようとしている。 ②箱の形や筒の形、ボールの形などを身の回りから見付けようとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領第1学年「B図形」(1)の内容で、身の回りにある箱や筒、ボールなどを、色や大きさ、何でできているかを離れて形として捉え、その特徴（平ら、丸い、かどがある）と働き（転がる、積める）を、触ったり積んだり転がしたりする操作で見付ける。子どもは入学前から積み木や空き箱で遊んできたが、形そのものに着目して仲間分けをするのは初めてである。単元の終わりには立体の面を写し取り、まるやしかくなどの形を取り出すので、色板などで平面の形を作る学習（同じB(1)）につながる。第2学年では正方形や長方形の面でできた箱の形（〔第2学年〕B(1)ア(ウ)）を、第4学年では立方体・直方体（〔第4学年〕B(2)ア(ア)）を学ぶので、本単元はその土台になる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

.....
.....

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、形の名前や特徴を先生が先に言わず、子どもが積む・転がす・触るなどの操作をして見付けたことを言葉にさせる。次に、仲間分けでは色・大きさ・材質で分けた考えも一度受け止めたうえで、「色が違って、形は同じかな」と問い、形を見させる。そして、見付けた形を教室や家の中の物に当てはめて探す活動を毎時間の終わりに入れ、身の回りの形に親しむ態度を育てる。具体物は家庭から集めるが、持って来られない子が困らないように、学校でも箱・筒・ボールを用意しておく。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○持ち寄った箱や筒、ボールなどを積んだり並べたりして、作りたい物（乗り物や建物など）を作る。 ○作った物を見せ合い、どの形の物をどこに使ったかを話す。	知②・態①（行動観察・作品）
	2	○いろいろな形の物を積んだり転がしたりして、よく転がる物と積める物を調べる。 ○平ら・丸い・かどがあるなど、調べて分かった形の特徴を話し合う。	知①（行動観察・発言）
第2次	3 （本時）	○集めた物を、形の特徴に着目して仲間分けし、分けた理由を話す。 ○仲間に名前を付け、触ったり一部を見たりして形を当てる。	思①・知①（行動観察・発言・写真）《思①は記録》
	4	○箱や筒の面を紙に写し取り、写した形を組み合わせせて絵をかく。 ○写した形から、どの物のどの面かを考える。 ○身の回りから、学習した形の物を見付ける。	知②・思②・態②（作品・行動観察・振り返り）《記録》

6 本時の指導 (3/4)

(1) 本時の目標

身の回りの箱や筒、ボールなどを、色や大きさ、材質を離れて形の特徴に着目して仲間分けし、分けた理由を形の特徴を表す言葉（平ら、丸い、かどがある、転がる、積める）を使って話せる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前の時間に調べた「よく転がる物」「積める物」を思い出す。 2 本時の問題をつかむ。 ○「みんなが持ってきた物を、同じ形の仲間に分けられるかな」 【めあて】かたちの なかまに わけて、わけた わけをはなそう。 〈予想される児童の反応〉 ・ころがる ものと ころがらない もので わける。 ・はこみたいな ものと まるい もの。 ・いろで わけたい。おおきさで わけたい。	・色や大きさ、材質がばらばらで、同じ形の物が混ざるように具体物を用意しておく（大小の箱、色の違う筒、ボールなど）。 ・前時に出た特徴の言葉（たいら・まるい・かど・ころがる・つめる）をカードにして黒板に貼っておく。 ・色や大きさに分ける声が出たら、一度受け止めてから「いろが ちがっても、かたちは おなじかな」と返す。
展開 (分)	3 グループで具体物を仲間分けする。 ○「どうして その なかまに したのかな」 4 分け方を発表し合う。 ○「この なかまの かたちは、どんな ところが にて いるかな」 5 仲間に名前を付ける。 6 形あてをする（袋の中の物を触って当てる。一部だけを見て当てる）。 ○「どこで わかったのかな」 〈予想される児童の反応〉 ・はこの なかまは たいらな ところがある。かどがある。つめる。 ・この なかまは よこに すると ころがる。たてに すると つめる。 ・ボールの なかまは どこから みても まるい。どの むきにも ころがる。 ・さわったら たいらで かどがあったから、はこの かたち。	・分けた物は台紙の上にまとめて置かせ、端末で撮影させる。 ・言葉が出にくい子には、実際に転がす・積むを試させ、その動きを「ころがったね」「つめたね」と先生が言葉にして返す。 ・筒の形について「横にすると転がる、立てると積める」と、向きで動きが変わることに気付いた発言を取り上げる。 ・発表は全部のグループにはさせず、分け方の違うグループを取り上げ、残りは写真を大型画面に映して見比べる。 ・名前は子どもの言葉から決め、教科書の呼び方と結ぶ。 ・形あてでは、当てた手がかり（平ら、丸い、かど）を言わせる。 ◎思① 色や大きさ、材質などを離れて形の特徴に着目して仲間分けし、その理由を考えている。（行動観察・発言・写真）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 学習をまとめる。 【まとめ】いろや おおきさが ちがっても、かたちで なかまに わけられる。はこの かたち、つつの かたち、ボールの かたちがある。 8 振り返りを書く。 ○「おうちや がっこうで、おなじ かたちを みつけたら おしえてね」 〈予想される児童の反応〉 ・きょうしつの ごみばこも おなじ なかま。 ・おうちの ティッシュの はこも はこの かたち。	・まとめは子どもの言葉で書く。 ・振り返りは「わかったこと」「みつきたい もの」の二つを、絵と短い言葉で書かせる。書くのが難しい子は話を聞いて先生が書き取る。 ◎知①（まとめの発言・振り返り）

（３）板書計画

上段左：日付、めあて「かたちの なかまに わけて、わけた わけを はなそう」。

上段右：形の特徴の言葉のカード（たいら・まるい・かど・ころがる・つめる）。

中段：三つの枠（箱の形・筒の形・ボールの形）を横に並べ、各グループの仲間分けの写真と実物を貼る。枠の名前は子どもが付けた名前を書き、教科書の呼び方を横に添える。

中段の各枠の下：その形の特徴を子どもの言葉で書く。筒の枠には「よこ→ころがる」「たて→つめる」と、向きで動きが変わることを矢印で書く。

下段左：形あてで当てた手がかりの言葉。

下段右：まとめの文と、振り返りの二つの観点（わかったこと・みつきたい もの）。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
 みえ先生ラボ

